

□海外文献紹介□

長期非経口的栄養摂取患者での
胆嚢疾患

Gallbladder Disease in Patients on Long-Term Parenteral Nutrition: JJ Roslyn, HA Pitt, LL Mann, ME Ament, L DenBesten (Gastroenterology 84: 148-154, 1983)

空腹時には肝外胆管に対する神経性、あるいはホルモン性の刺激の欠如が起る。したがって、長い間の空腹は、胆嚢内胆汁のうっ滞を起こす。胆嚢から胆汁の流出が遅延する結果、胆嚢炎や胆石発生が起りやすくなる。また、8~15時間の空腹状態は、胆嚢胆汁のコレステロール飽和指数を増加させることがわかった。さて、長期間非経口的栄養摂取(TPN)の患者は、長期間経腸栄養摂取を制限されるので、胆嚢胆汁う

っ滞と結石のリスクが増大することが予想される。TPNの患者で、胆嚢が著しく拡大し、胆嚢炎と胆石の頻度が増すとの報告は、この仮説を支持している。

著者らは3カ月以上のTPN患者を対象に胆嚢疾患を調査した。対象となった128人の患者のTPNの平均期間は、13.5カ月であった。19人はTPNを受ける以前に既に胆嚢疾患を持っていた。残る109人のうち、25人(23%)が、TPN開始後に胆嚢疾患にかかった。このうち回腸障害の94人(Crohn病または回腸切除、あるいはこの両者合併)の患者では、胆嚢疾患を40%に認め、同じ回腸障害でTPNを受けていない患者での予想罹患率25%より著明に高かった。他の研究では回腸切除から時間の経過と共に胆石の頻度が、

直線的に増加すると言うが、この研究では時間的経過との関連を見出さなかった。以上TPNそのものが、胆嚢疾患を促進する因子であることが示された。TPN中に経口摂取をしなかった患者では、経口摂取をした患者の約2倍の胆嚢疾患を認め、胆汁うっ滞が、胆石形成、特にコレステロール結石の重要な原因であることが示された。

以上より、著者らは長期の非経口的栄養摂取の患者では、胆嚢の拡張と胆汁のうっ滞が起り、その結果、胆嚢炎や胆石を起こしやすくと結論している。今後はprospectiveな研究で、この仮説を確認することが必要である。

(愛知県がんセンター第1内科

小林 世美 抄)